

ニュージーランドに発つ前の日本でのニュースで、安倍首相が TPP 交渉参加を表明しました。このことでわたしは、今後の農業はどうなるのだろうと思い、輸出大国であるニュージーランドの輸出事業、販売方法を学ぼうと思いました。

ニュージーランドでは、大きな輸出貿易会社 ENZA の ENZA Fruits で視察を行い、栽培の面では日本の方が技術はかなり上だと思いますが、ニュージーランドではわい化の多収穫が主で 10a で 8.5t の収量がある。わい化栽培での台木は CG202、M9 の自根苗を使っており、列間が 3.5m、樹間が 1.5m で栽培しているが、収量を上げるため 1.5m の間にもう 1 本を植えて試験をしているという。

品種ではロイヤルガラ、Jazz、Envy、KIKU（着色系ふじ）などがある。それぞれ輸出に向けての狙いがあり、KIKU は大玉生産（贈答品狙い？）、Envy は甘い味が特徴でありアジアやアメリカで好評であるという。この Envy というリンゴは昨年、日本でも販売されたリンゴであり、安くとてもおいしいと評判で、すぐに売り切れになったらしい。ただ、輸入してきた時に内部褐変が見つかっており、その対策も日本向けにするという。

もし、この Jazz が日本にどんどん輸入されれば、おいしくないふじよりは、おいしく安い Jazz にお客さんが流れるのではと懸念される。

今回の研修では TPP をにらんで、いろいろ視察をさせていただきました。日本はこれからどうなるのでしょうか。リンゴはこれから Jazz のようなリンゴが入ってきて有袋リンゴは大丈夫か、安いリンゴが入ってきて加工または下等級品はどうなるのか、不安ばかりが募ります。だがリンゴだけでなく、農業全体、町、県全体、日本全体で打開策が必要だと思います。これからは日本でも東南アジアを中心とした、安心安全な輸出国家になれるようお願いばかりです。